

# 東京都助産師会 ビジョン 2027

公益社団法人東京都助産師会は、平成 27 年度総会で発表した「日本助産師会中期ビジョン 2025」を基に、東京都における特徴的な問題を加味し、向こう 5 年間、2027 年までの目標等を掲げた東京都助産師会ビジョンを作成致しました。

東京都は他の地域と比べて出生数が格段に多く全国の 12%を占めています。しかし、出産年齢が高齢化しており、地域とのつながりが希薄であることからサポートが少なく孤育てとも言える状況を生み出しています。また近年では無痛分娩の割合が増加しており、医療介入が増加することにより、産後の回復が遅れがちであること、育児技術の習得が依存的になっていると感じています。また外国人の増加や、LGBTQ+※の方々へのサポートなど、東京ならではの多様性を目の当たりにしています。

上記の特徴を念頭に置き、それらの課題の解決を目指し、助産師のケアの質向上、専門職能団体として発展するための 3 つの事項等、ここに示す基本的な考え方と具体的実践案をもって取り組んで参ります。

## 【長期ビジョン】

すべての母子とその家族に、適切な助産師の支援が届くことを目指します。

## 【短期ビジョン】

### I 妊娠・出産・育児期の母子と家族を大事にしたケアの充実

妊産婦が正常な妊娠・分娩・産褥経過をたどれるように、助産師がケアし支援することの重要性が再認識されています。助産師主導のケアを提供する場やシステムの構築およびケアの安全と質の向上につながる活動を行っていきます。

#### 1. 妊娠出産ケアの充実

(1) 妊娠・出産にかかわる健康教育の内容を見直し、浸透させます。

- ・妊娠期の身体のセルフケアについて

働きながら産む女性や高齢で出産する女性が増えています。妊娠中の体調や気持ちを整え、分娩を見据えた身体づくりを知ること、行うことは正常な妊娠・分娩・産褥経過を助けます。

- ・多様な分娩方法について正確な情報を得て選択できること

分娩方法の選択肢が多様化している反面、正確な情報を得られず戸惑う妊産婦も少なくありません。妊産婦が主体的に分娩を考え、意思決定できるような支援が必要です。

- ・基本的な育児技術・知識の習得

赤ちゃんに関わった経験のない妊産婦が増えています。また核家族や地域とのつながりが乏しい母子も多く、子育てについて気軽に相談できない状況があります。育児技術や知識の不足は産後の不安や育児困難感を助長するため、妊娠中から育児技術・知識について学ぶ機会を充実させることを目指します。

(2) 周産期メンタルヘルス支援に対する助産師の対応力を強化します。

- ・妊娠期から育児期にかけて心の不調を経験することは誰にでも起こり得ることと捉え、全ての助産師が妊産婦やその家族の心の不調に早く気づき、適切な対応ができることを目指します。

(3) 産婦とその家族の多様性を大切にされたケアを提供します。

- ・日本の言語や文化になじみのない方々、LGBTQ+の方々、様々な障がいと共に生きる方々など、助産師は妊産婦とその家族、一人一人の多様な個性を尊重し、理解に努め、よりよいケアを提供します。

## 2. 周産期の安全に関する対策を強化。

- (1) インシデント・アクシデントレポート報告制度を構築し、医療安全文化の醸成を促進します。
- (2) 周産期ケアの安全基準評価を実施し、検討します。

## 3. 産前産後ケアの充実

東京都の地域性として妊産婦とその家族の置かれている状況は、より孤立しやすく、親が育児の困難を抱える傾向があると考えられます。妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援を対象者に合わせて行い産前・産後ケアの推進や、母乳育児支援の強化、児童虐待の予防とその対応について、助産師職能を活かし、他の関係者とともに充実を図っていきます。

- (1) 助産師が行う産後ケアの質の評価を実施し、質の向上に努めます。
- (2) 安全にケアが行われるように、ケアの質の向上を図るため、情報共有（他職種連携を含む）や勉強会（産前・産後ケア、母乳育児支援、児童虐待等）を開催します。
- (3) 助産師の働き方が多様化するなか、産後ケアにかかわる運営や勤務状況の実態をどのように把握できるか検討します。
- (4) 産後ケアに関わる多職種や関係諸機関と連携を深めて、安全で有効な産後ケアができるように努めます。

## 4. 性と生殖に関する教育の充実

いのちの安全教育、包括的性教育、プレコンセプション（妊娠前）教育、SRHR教育（性と生殖に関連する健康や権利についての教育）など、あらゆる世代に妊娠・出産・育児期の知識を広める活動を行う助産師の教育実践能力を一定水準引き上げ、さらなる向上を目指します。

- (1) 性と生殖に関する最新の情報やスキルを習得できるよう、関係機関や専門家の協力を得て、網羅的な教育プログラムを開発・実施し、助産師のスキルと知識のアップデートを支援します。
- (2) 生・性を語るエデュケーター認定助産師の育成と増員を目指します。
- (3) 助産所や学校、地域コミュニティなどで講演やワークショップを開催し、性と生

殖に関する正確な情報を広めるための機会を提供します。

## II 優れた人材の育成

対象者へのよりよいケア提供のためには、優れた人材が必要です。助産師の技術を伝承し、離職の防止対策の強化が必要です。

1. 新規助産所開設者の支援を行い、安全に分娩を取り扱う助産所の増加を目指します。
2. 助産師のスキルアップ教育の提供
  - (1) 助産所部会、保健指導部会、施設勤務部会（3部会）の特性に即した教育の機会を提供します。
  - (2) 3部会において交流の機会を設け、助産師の情報のアップデートと知識・技術の幅を広げる場を提供します。
3. 潜在助産師の復職支援等、人材の活用を推進します。
  - ・潜在助産師や助産師有資格者でも助産師として就業できていない人材の現状調査を行い、助産師としての実務教育の機会を提供します。

## III 専門職能団体としての組織強化を図り、社会的地位の向上に努める

助産所の安全性に関するデータの公表や母子保健施策への積極的な政策提言を行い、母子への良質なケア提供環境や社会における助産師職能の信頼性の向上に努めます。

1. 周産期に関わる社会動向などの情報収集を行い、より具体的で積極的な政策提言とその根拠になる調査の実施を推進します。
2. 医療施設、行政機関への本会活動の周知など地区分会ともさらに連携し、広報活動を推進していきます。
3. 働く場所が異なる助産師や、多職種との交流・情報交換の場を設け、連携の強化に努めます。

### 【※用語の説明】

LGBTに関して、中西が我が国における経緯についてまとめている。

中西絵里：LGBTの現状と課題、立法と調査、2017.

[https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou\\_chousa/backnumber/2017pdf/20171109003.pdf](https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2017pdf/20171109003.pdf)

昨今では、性自認に関して従来からのLGBTに加え多種多様な個別性があることが分かってきており、LGBTQ+という表記が使われており、本ビジョンにおいても同様に表記した。

2003年9月8日

### 【ビジョン作成までの経緯】

2022/10/30(日)第1回助産師ディスカッション

2022/12/18(日)第2回助産師ディスカッション

2022/4/23(月)第3回助産師ディスカッション 5/12を期限に意見提出依頼

2022/5/17以後、理事会で検討を重ねた。

### 【ビジョンに関連した動き】

- ・2022年度 安全対策委員会を中心に安全対策に関する見直しを実施（2023年6月より運用開始）。
- ・2023年度 外国人のための母親教室、育休獲得のための父親支援、助産師マップ作成等を計画中。